

# ひまわり 44

道退教室蘭・胆振支部 支部長 黒田 孝

発行 2016・11・10 事務局長 近藤忠義

TEL・Fax 0143 22 3862

## 私の9月

室蘭 金崎 重彌

9月19日、何としてもこの日は参加したいと、「いらぬ！戦争法、西胆振の会」の集会に出た。150名程でパレードをした。この時、会の事務局らが訴えて、この1年間、毎日曜日に抗議のアツピールの集いをし続けてきたということを聞いて、ものすごい活動に感謝の気持ちでいっぱいになった。

ボランティアスタッフの一員として、登別駅近くにある、「知里幸恵銀のしずく記念館」に参加して7年ほどになる。十名程度のスタッフが都合のよい日、館の運営を手伝う。6年のガントの闘いで、理事長・館長である姪の横山むつみさんがとうとう逝去した。16年間続いたフォーラムの成功を見届けて、スタッフの一人ひとりに、「よか

ったね。大成功だったね。」とねぎらいの言葉をかけて逝ったのだ。遺言に従って記念館から無宗教で見送った。むつみさん亡き後、これからが大変だが、アイヌの文化を皆で発信したい。ぜひ足を運んで、周りに広めてください。

三つ目は、民医連室蘭診療所友の会に、映画サークル「なつかしい映画を見る会」を立ち上げた。高齢者一人ひとりをバラバラにする政策に(若者もそうされているが)みんなの手をつなぎ合い、住んでいてよかったと思えるふるさとづくりを願ってのことだ。9月30日「息子(むすこ)」の映画会に28名が参加。毎月一回ずつ、参加費百円で、輪西の診療所2階。次回は10月21日「真昼の決闘」。楽しんでやっている。来年は妻に引張られて、連日の札幌ドーム通いとなる。



## 金崎さんの原稿に間違っ

室蘭 近藤 忠義

○ 9月19日の集会には私も同じ気持ちで参加しました。道退教の会員も数名参加していました。全国各地で集会が持たれ多くの方が参加し、戦争法をなくす運動が粘り強く進められていることに、勇気と希望をもらいました。衆議院選挙の野党共闘に大きな力になることを願っています。安倍政権にとっては、この国民の動きを脅威に感じていることでしょう。

○ 9月末、横浜市在住の友達から突然電話がかかってきました。50年ぶりに聞く声で、高校時代の友人です。今まで年賀状だけの繋がりで、今年の参議選のとき初めて手紙を貰い返事を書いたぐらいです。新聞で横山むつみさんの死を知り、電話が来た次第です。

彼は、知里幸恵のことをいろいろ調べているそうで、知里幸恵の研究者や幸恵のことを記事にした高校の先輩の元記者に電話を入れたり会ったりして調べているようです。私も高校時代に新聞で知里真志保を知ったことや、登別小勤務のときに、知里幸恵のことを聞いた事等を思い出し話し話が盛り上がりました。

# 登別・白老地区交流会終わる

白老 佐藤 美穂子

八月七日に登別白老地区交流会を行いました。会場は白老の旧酒蔵を改装したホルの白老創造空間「蔵」で、そこで開催されたピースフェスタ「白老二〇一六」に参加して交流しました。

ピースフェスタは今年で五回目の開催ですが、午前中は元旭山動物園々長の小菅正夫氏講演とあつて、会場は沢山の方々が訪れていました。演題は「野生動物を語る」で、動物の習性を生かした見せる動物園・絶滅危惧される種を保護し繁殖させ自然に戻す役割が動物園にある等、自然との共生についてのお話には会場は熱気に包まれました。

## ピースフェスタ in 白老2016

平和の願いを込めて、毎年8月に開催する「平和のつどい」です

日時…8月7日(日曜日)  
10:30～15:00

会場…白老創造空間「蔵」

協力券…¥700(高校生以下は無料)

平和記念講演 ★10:30～12:00

講師：小菅正夫さん

(元・旭山動物園園長)

演題：野生動物を語る

小菅正夫さんのプロフィール

1949年生まれ、旭山動物園に生まれ、旭山動物園で動物飼育員として勤務し、1995年に園長に就任。

動物園、野生動物の「付加価値」を高める取り組みを推進し、旭山動物園を日本動物園の入場者数を誇る動物園に育て上げた。

現在、旭山動物園動物園長。



★12:30～13:00 午射習儀(出陣巻) 二杯亭小酌会 開設

★13:30～15:00 ピースフェス・コンサート  
「おんがで歌おう」「和太鼓演奏」「ジャズピアノ」「女声コーラス」「ギター弾き語り」

★アークシュビッツ写真展(9:00～15:00 展示室)

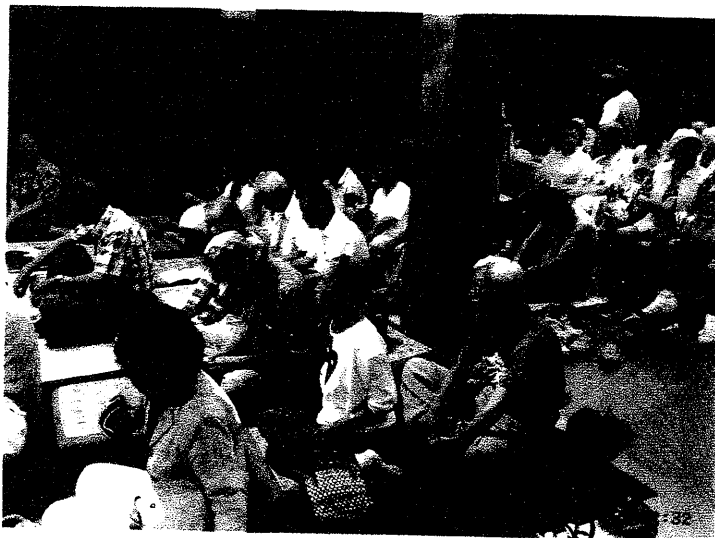
主催 ピースフェスタ in 白老2016実行委員会

後援 白老町、白老町教育委員会、北海道新聞社、小樽支社、道民新聞社、道小樽商工会

問い合わせ：実行委員長・稲澤 (0144-87-4287) 事務局・佐藤 (0144-87-4664)

チケット取扱い：蔵、喫茶 茶湯屋、喫茶 休養林、喫茶 さざり、フロンティア

昼には「すいとん」が用意され、食べながら会話がはずみました。食後は平和寄席があり、二杯亭小酌楽師匠の小話で楽しみました。



平和寄席客席

午後の部はコンサートで、歌声がから始まり、湯の華太鼓の和太鼓演奏・サククスとジャズピアノ演奏・フイメールコールの女声合唱・山下久雄さんのギター弾き語りと続きました。昨年の交流会に参加できなかった登別の方々にも多数参加して頂けて

良かったです。今回は、会員だけの交流会ではありませんでした。公園を聞く機会や演芸に接することも少なくなってきたので、心の保養になった等、良かったという感想を多く頂戴しました。ピースフェスタ実行委員長の岡澤先生・事務局の松尾先生初め、白老の会員も手伝っていたので、登別会員の参加は白老も嬉しい交流となりました。



コンサート 湯の華太鼓さん

# だて九条の会発足一〇年を迎えて

伊達 安藤 忍

「だて九条の会」が六月三日で発足一〇年を迎えた。

二〇〇六年の正月が過ぎた頃、「言い出しっぺ」五人衆がレストランに集まった。「伊達市全体を『網掛け』しよう、幅広い分野の方々と一緒に進めよう」という壮大な構想で話し合いが進んだ。

三月には十七名の参加をいただき結成準備会が開催された。五人衆の基本方針をまな板に載せさばいていただいた。そして六月三日約二〇〇名の参加を得てスタートできた。

現在九四名の市民が「名前を公表し呼びかけ人になってほしい」を条件に「だて九条の会」に名を連ね、月一回の情報を手にして絆を深めている。会費なし。年一回行う行事などで財政を確保している。

一〇月一日の「二〇周年記念講演会」には七〇名の呼びかけ人、市民が集まり、若手弁護士・川上麻里子氏と活発な質疑応答が交わされた。参加費三〇〇円と「一〇〇円募金箱」に投じられた浄財と合わせて大幅な黒字となった（五千円札二枚が入っていたのには感動しました）。

日常の行事は、毎月十九日のサイレント

スタンディング（国道の道の駅出入り口近くの歩道にて）。十月からはお昼の十五分間に切り替えた（夏場は通勤時間）。この日、目の前を通過した車は四三八台（霊柩車一台バス三台）。運転手らは『憲法を守ろう』の横幕とそれを持つ集団に必ず目を向ける。中には手を振る人もいる。わずかな時間で四五〇人以上が平和への光を見たことにな



平和の中で生け花を～  
発足を記念した行事で披露する「呼びかけ人」

る。一〇か月間で五千人以上である。洞爺湖町の若者が伊達市でのスタンディングに感動したという話を耳にした。嬉しいものである。何事も「呑気・根気・元氣・勇氣」ですね。

## 井上ひさこの言葉とプロモ

室蘭 近藤 忠義

むずかしいことをやさしく  
やさしいことをふかく  
ふかいことをおもしろく  
おもしろいことをまじめに  
まじめなことをゆかいに  
そして ゆかいなことは  
あくまでゆかいに

右の井上ひさし氏の言葉は、以前室蘭の酒本さんが、窪田さんから教えてもらった言葉として「ひまわり」で紹介していました。当時私は室蘭の科学館に勤めていたので、プロモ活動にぴったりの言葉だと思いい、職員の研修のときに紹介しました。大変好評を博しました。

室蘭の科学館は、市が「指定管理者制度」で運営するようになり、退職教員を中心になりました。（市の狙いは、人件費の削減？）運営のモットーは「見て、触れて、作って納

得」で、楽しく科学を体験しようということ  
で、展示会場でプロモ係(展示物を説明する  
係)が来館者に、不思議と感動を体感して  
らおうと努めています。

ついでに、もう一つ。朝永振一郎(物理  
学者、ノーベル物理学賞)氏の言葉を紹  
介します。

不思議だと思ふこと。

これが科学の芽です。

よく観察して確かめ、そしてよく考  
えること。

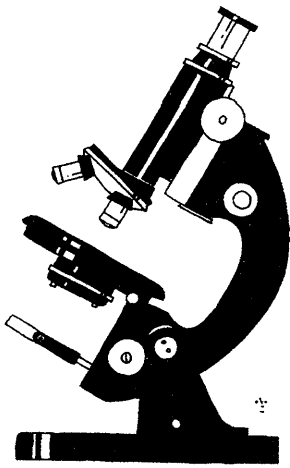
これが科学の茎です。

そして最後に謎が解ける。

これが科学の花です。

この言葉も科学館の活動にびつたり  
の言葉です。朝永氏は、この精神に従  
って、子どもたちに科学に関心を  
持つてもらおうための実践に努  
めました。

このように、「ひまわり」の内容も  
仕事や諸活動に役立つものだ  
と感じたので、井上ひさし  
氏の言葉を再度紹介してみ  
ました。



## 子どもの頃の思い出の月

室蘭 近藤忠義

科学館に勤めていたとき、私の子どもの  
ときの疑問を調べたり聞いたりする機会に  
恵まれた。同じような疑問や関心を持って  
いる人が結構いることに少し心強く思い、  
月にまつわる話を紹介します。

### ① 上弦の月、下弦の月の命名の疑問

子どもの頃の月にまつわる私の疑問の一  
つに、「上弦の月」、「下弦の月」の命名の由  
来がある。

「弦が上にあるから上弦の月、下にあるか  
ら下弦の月」と習ったような気がするが、  
半月の位置によって弦が上にも下にもなる。  
あるとき、車の運転中に偶然、「月が西に没  
するときの弦の位置で上弦、下弦と名付け  
た。」とラジオで放送していた。

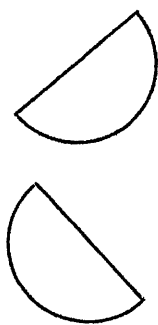
しかし、下弦の月が西の空に沈むのは正  
午ごろである。その頃の月を意識して見る  
ことはあまりないように思われる。昔の人  
がそれを見て命名するだろうか。

私の疑問を解決してくれたのは、藤井旭  
氏の著書「月と暮らす」である。その本に  
よると、「上弦の月は、上旬の半月のことで、  
俳諧新式に『上(かみ)の弓張りのことな  
り』と記されている」と紹介している。し

かも、弦の上下で上弦下弦というのは誤り  
であると書いてあった。50年以上たつて  
私のもやもやとしたささやかな疑問が解  
けた瞬間であった。

昔、半月のことを「弦月」と言い、上旬の  
弦月を略して「上弦」となったようである。

ちなみに、三省堂の例解新国語辞「(上弦  
は)しずむとき、つるにあたる部分が上  
にあることからいう。」と、命名の由来を記述  
している。また、岩波書店の国語辞典では、  
「上弦の月は弦を上にして見える。下弦の  
月は弦を下にして見える」と記述していた。  
こんな状態だから、間違つて覚えている人  
が多いのだろう。(機会があれば、続きを)



どちらが  
上弦の月?

### 編集後記

○今回は、原稿が少なくて困りました。

○原稿をプリントアウトしようとした日、  
安藤さんの原稿が届きました。(そんな  
訳で、私のつまらない文章が減って助  
かりました)

○写真付き原稿は有難い。

○次号は沢山の原稿をよろしく頼みます。